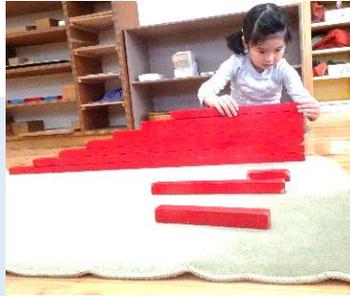


モンテッソーリ教具の中から「感覚教具」と「数の教具」の紹介をしたいと思います。

感覚教具

子どもは言葉ではわからなくても、触ったらわかる、口に入れたらわかる、叩いたらわかるなど、目・耳・鼻・口・手という感覚器官で試す生活をしています。「手は突き出た脳」といわれるように、子どもは様々なものを触ることで、感覚を豊かにしていきます。感覚教具は、子どもが今まで経験してきたことを秩序づけ、最終的には感覚を言葉（大きい・小さい・高い・低い・太い・細い・長い・短いなど）で表現していきます。



数の教具

数の教具は、感覚教具を何回も自分の手で扱って、感覚の違いがわかり秩序づけられるようになったという能力を土台に取り組みます。子どもが体を使って数の概念をはっきり理解し、具体物を数詞に置き換えて考えるように用意されたものです。生活の場でも「数」に触れることは多く、給食当番の場面では、出席カードと椅子の数を一致させ、準備をします。

